

多自然川づくり取組事例

タ イ ト ル : ~人と鳥の共生を目指して~ 千葉ニュータウンにおける鳥害対策		
水 系 / 河 川 名 : 利根川水系 戸神川		河 川 分 類 : 中小河川
河川の流域面積: 7.654	整備計画流量: 19.14m ³ /s	セグメント: 不明
事 業 : 維持管理	事業開始年度: 令和5年度	
目 標 設 定 : 定性的	段 階 : A(フィードバック時)	
課題・目的(主な): その他		
工 法 (主 な) : 樹木伐採、除根、その他		
配慮事項(主な): 河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催、その他		

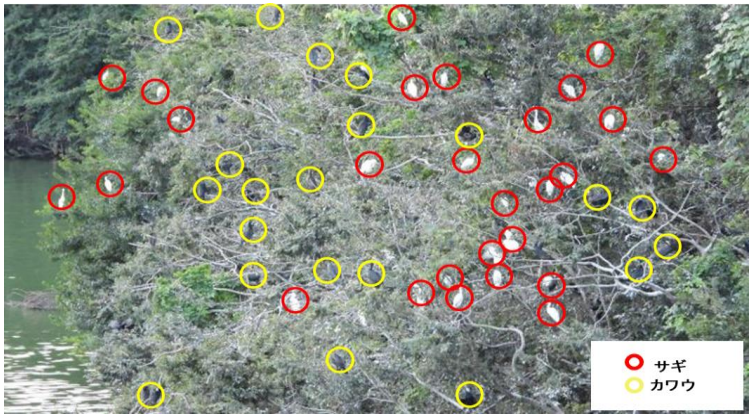
背景・課題、目標設定

＜背景＞

千葉ニュータウンの県立北総花の丘公園には戸神川調節池が存在し、鳥類の生息に適した自然環境が整っている。人と鳥が共生するゾーンとして、鳥類の生息環境の保全と地域に調和した景観を形成した優良なグリーンインフラとして、多くの人に親しまれている。
しかし、近年、飛来するカワウやサギの大型鳥類が急激に増えたことで、以前は見かけた他の水鳥も減少し、騒音悪臭といった生活被害が大きな社会問題となっている。
鳥害の軽減を図り、人と鳥の共生を目指す取組の現状及び今後の展望について発表する。

＜課題＞

住宅沿いの鳥害の低減を図る。



カワウとサギが密集する様子

＜目標＞

住宅沿いの鳥害を低減しつつ、調節池内での鳥との共生を目指す。

取組内容・対策例 (1/2)

1. ハード対策とソフト対策の併用
2. ハード対策(調節池内の樹木の部分伐採)
メリット:対策後、直ちに効果が得られる
デメリット:高額な費用が掛かる、全伐採すると景観の悪化、他の地域への被害の転嫁、
施工上、伐採可能な箇所が限られる

＜樹木伐採で得られた知見＞

伐採により見通しが良くなると人の目が届きやすいため、警戒心の強いカワウは、伐採していない周辺の樹木からも減少した。



伐採前



伐採後

取組内容・対策例(2/2)

3. ソフト対策(継続的な生息調査と対策の検討)

- ・専門家ヒアリングと他の事例視察、意見交換会
- ・ゾーニング(住宅側で伐採や繁殖期の追い払い行い、対岸側に誘導し、住み分けを目指す)
- ・ドローンなどを活用した生息調査(カワウ等の生態や対策効果の把握)
- ・地元自治会及び関係機関との情報共有、連携



自治会との意見交換会の様子

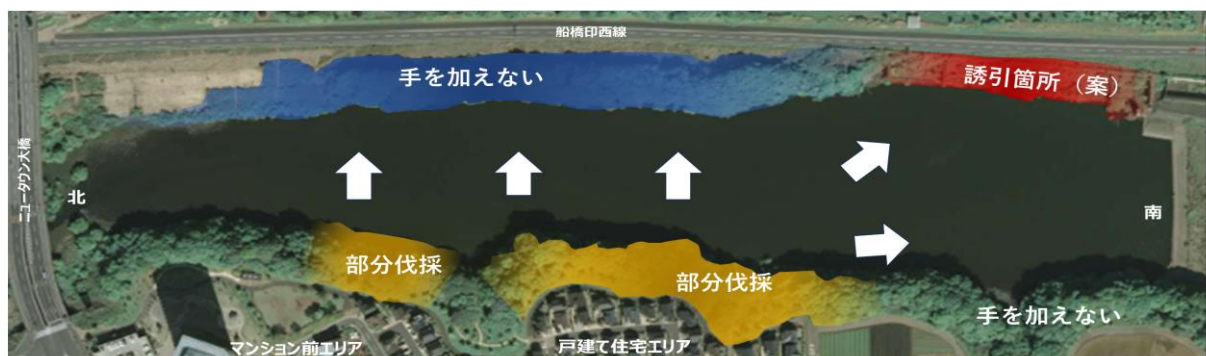


ドローンを活用した生息調査の様子

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜今後の対応＞

- ・これまでの伐採等により、最も被害が深刻であった戸建て住宅エリアの被害が相当程度に減少し、相対的にマンション前エリアや対岸側の生息数が増加しており、第一段階としては概ね狙い通りに進んでいる。
- ・住宅側はこれまで通り、部分伐採を進めながら、カワウ、サギの飛来時期を狙って集中的に追い払いを実施。人と鳥類の住み分けを目指し、対岸や南側へ誘導する。住宅南側の端部付近については、新たな戸建て住宅の開発が進んでいるが、現時点で被害は無いため、手を加えず、生息調査の結果を見ながら対応を検討。
- ・今後の課題としては、マンション前エリアについて、誘導先の対岸側のキャパシティを超えないように、様子を見つつ、伐採可能な箇所が限られるため、他の対策と併用しながら被害の低減を図る。



＜アピールポイント＞

追い払い対策の実施にあたり、近隣の水辺がある環境に移動したカワウやサギが新たな被害を生んでしまう可能性もあるため、「戸神川調節池の外に鳥害を拡散させない」ようにしつつ、「住宅沿いの鳥害を減らす」ための対策を実施している。

備考